

タイトル	<研究ノート>北海道における農業集落の地域特性について
著者	寺田，稔
引用	北海学園大学学園論集，116：81-94
発行日	2003-06-25

北海道における 農業集落の地域特性について

寺 田 稔

1. はじめに

高度経済成長期以降，日本の農業が大きく変貌するなかで農業があるから農山村が存在するのではなく，農山村に人々が生活しているから農業が営めるのであるという認識の方が有効性が高くなり，従来の農業・農村という順序でなく農村・農業という順序での視点が重要になってきている¹⁾。このような状況のなかで農業集落²⁾の現状と地域特性を把握することは，地域農業の発展と将来計画を考えるうえで極めて重要であると考ええる。

本研究では，北海道における農業集落の現状を14支庁について分析し，さらに農業集落の地域特性について検討した。なお，本研究の分析に使用した資料は，2000年世界農林業センサス結果報告書³⁾である。

2. 農業集落の現状

1. 農業集落数とその減少

(1) 農業集落数

北海道は，農業集落数が6,637集落（平成12年）で全国の4.9%を占め，沖縄地域の728集落について全国の地域別集落数で最も少ない⁴⁾。図1は，農業集落数を14支庁別に示したものである。農業集落数が多い支庁は，上川支庁の1,331集落(20.1%)，空知支庁の1,243集落(18.7%)，十勝支庁の1,050集落(15.8%)で，この3支庁で北海道全体の約55%を占めている。農業集落が少ない支庁は，宗谷支庁の144集落(2.2%)，檜山支庁の146集落(2.2%)，日高支庁の162集落(2.4%)，胆振支庁の167集落(2.5%)などである。

(2) 農業集落の減少

北海道の農業集落は，平成2年から平成12年までの10年間で338集落が減少（減少率4.8%）した。減少数が多かった支庁は，後志支庁の65集落，上川支庁の58集落，空知支庁の41集落，十勝支庁の35集落などである。減少数が少なかった支庁は，檜山支庁と根室支庁の3集落，釧路支庁の9集落，日高支庁の12集落，石狩支庁の13集落などである。

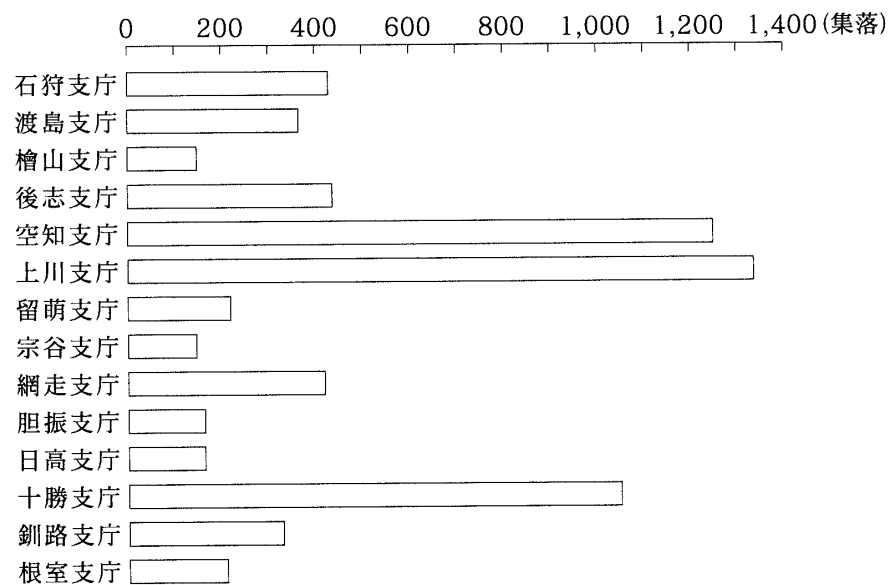


図1 農業集落数〔平成12年〕

図2は、10年間における農業集落の減少率を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、平均減少率が4.8%で全国の3.5%よりも大きかった。減少率が大きかった支庁は、後志支庁の13.1%、留萌支庁の10.2%、宗谷支庁の10.0%、胆振支庁の8.7%などである。減少率が小さかった支庁は、根室支庁の1.4%、檜山支庁の2.0%、釧路支庁の2.7%、石狩支庁の3.0%、空知支庁と十勝支庁の3.2%などである。

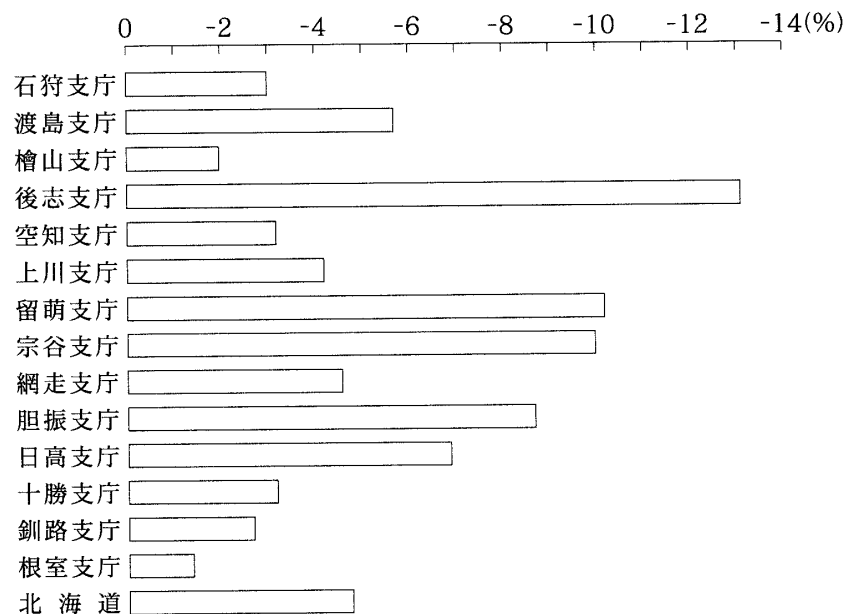


図2 農業集落の減少率〔平成2年～平成12年〕

2. 農業集落の立地と形態

(1) 地勢別の農業集落数

図3は、地勢別の農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、平野に位置する農業集落数の割合が49.5%で全国の53.5%とほぼ同じであるが、山間に位置するその割合が12.5%で全国の21.5%よりも明らかに小さい。平野に位置する農業集落数の割合が大きい支庁は、根室支庁の98.6%、石狩支庁の86.6%、網走支庁の79.5%、宗谷支庁の75.0%、檜山支庁の74.0%などである。山間に位置する農業集落数の割合が大きい支庁は、留萌支庁の56.6%、後志支庁の36.3%、胆振支庁の28.7%などである。さらに、盆地に位置する農業集落数の割合が大きい支庁は、上川支庁の65.7%と釧路支庁の58.5%である。

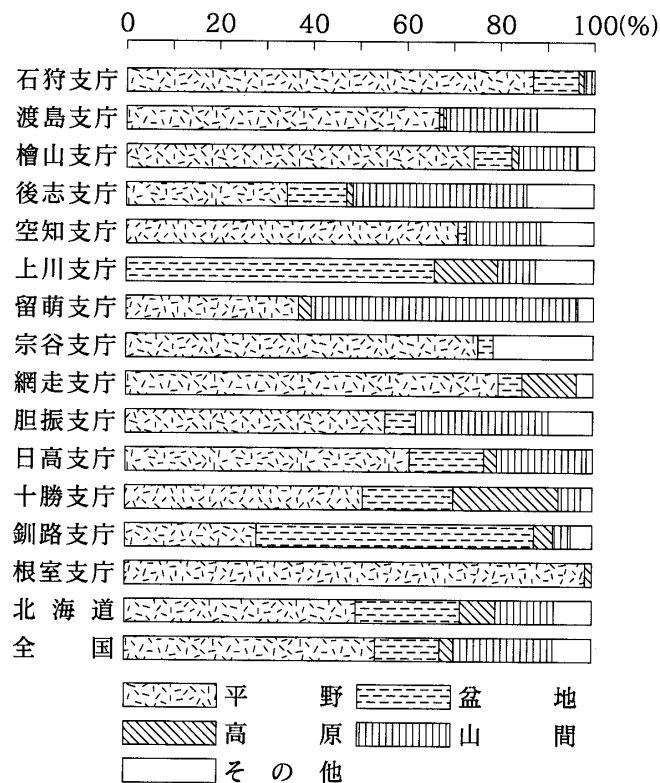


図3 地勢別の農業集落数（割合）〔平成12年〕

(2) 集落の形態別農業集落数

図4は、集落の形態別⁵⁾農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道の農業集落は、散居集落数の割合が65.1%で全国の14.8%よりも著しく大きく、集居集落数の割合が8.2%で全国の54.8%よりも極めて小さい。散居集落数の割合が大きい支庁は、宗谷支庁が93.1%、十勝支庁が82.5%、上川支庁が79.2%、空知支庁が78.7%、後志支庁が76.0%などである。集居集落数の割合が大きい支庁は、渡島支庁の52.6%と檜山支庁の41.1%である。密居集落数の割合が大きい支庁は、石狩支庁の54.1%と胆振支庁の25.7%である。散在集落数の割合

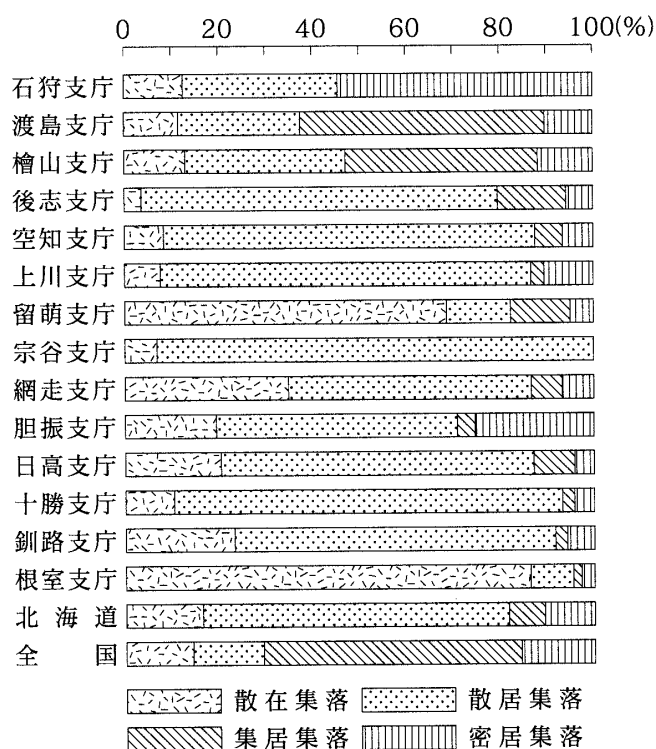


図4 集落の形態別農業集落数（割合）〔平成12年〕

が大きい支庁は、根室支庁の 86.6%と留萌支庁の 68.5%である。

3. 農業集落の世帯数

(1) 総世帯数

北海道は、農業集落の農家世帯数と非農家世帯数を合計した総世帯数が1,234,884世帯（平成12年）である。図5は、農業集落の総世帯数を14支庁別に示したものである。総世帯数の多い支庁は、石狩支庁の559,303世帯（45.3%）、上川支庁の104,047世帯（8.4%）、空知支庁の97,284世帯（7.9%）、渡島支庁の92,743世帯（7.5%）、網走支庁の85,363世帯（6.9%）などである。総世帯数の少ない支庁は、宗谷支庁の5,270世帯（0.4%）、根室支庁の12,828世帯（1.0%）、留萌支庁の15,406世帯（1.3%）、檜山支庁の17,917世帯（1.5%）などである。

図6は、1農業集落あたりの総世帯数を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、1農業集落あたりの平均世帯数が186世帯で全国の213世帯よりも明らかに少ない。1農業集落あたりの総世帯数が多い支庁は、石狩支庁の1,316世帯、胆振支庁の395世帯、渡島支庁の254世帯、網走支庁の206世帯などである。1農業集落あたりの総世帯数が少ない支庁は、宗谷支庁の37世帯、十勝支庁の59世帯、根室支庁の61世帯などである。

図7は、総世帯数の規模別農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道の農業集落数は、総世帯数49世帯以下の比較的規模の小さな農業集落数が全体の約76%を占めている。北海道は、総世帯数9世帯以下の農業集落数が24.9%で全国の4.0%よりも著しく

北海道における農業集落の地域特性について（寺田 稔）

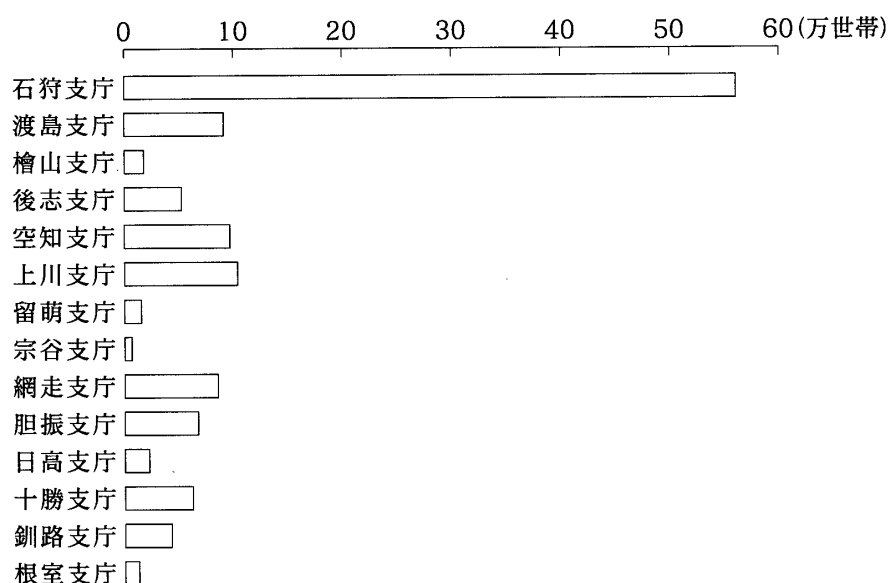


図5 農業集落の総世帯数〔平成12年〕

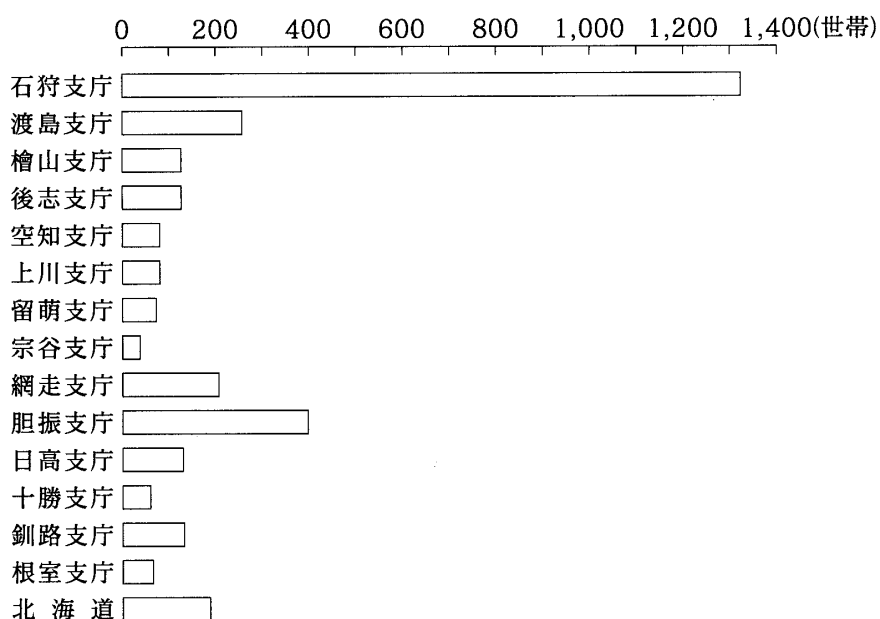


図6 1農業集落あたりの総世帯数〔平成12年〕

大きく、総世帯数50～149世帯の農業集落数が10.5%で全国の29.7%よりも著しく小さい。総世帯数9世帯以下の農業集落数の割合が大きい支庁は、十勝支庁の43.0%、釧路支庁の39.6%、留萌支庁の37.4%、根室支庁の34.0%などである。総世帯数10～49世帯の農業集落数の割合が大きい支庁は、後志支庁の61.5%、空知支庁の60.0%、上川支庁の59.0%、根室支庁の56.0%などである。総世帯数300世帯以上の農業集落数の割合が大きい支庁は、石狩支庁の47.0%、胆振支庁の24.6%、渡島支庁の20.3%などである。なお、宗谷支庁は、総世帯数300世帯以上の大規模な農業集落が皆無である。

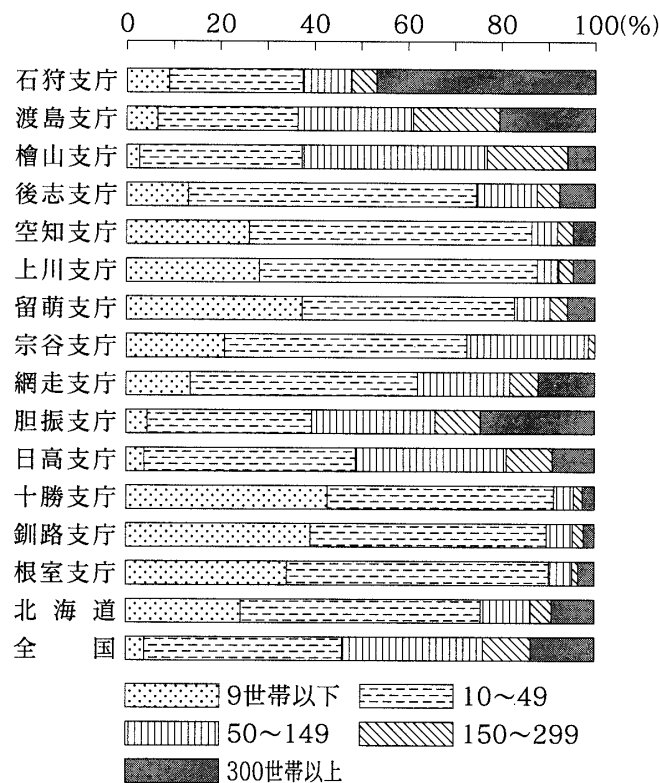


図7 総世帯数の規模別農業集落数(割合)〔平成12年〕

(2) 農家世帯数

図8は、総世帯数における農家世帯数と非農家世帯数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、農家世帯数の割合が5.6%(68,698世帯)、非農家世帯数の割合が94.4%(1,166,186世帯)で農家世帯数の割合が全国の10.7%よりも小さい。農家世帯数の割合が大きい支庁は、宗谷支庁の22.7%、檜山支庁の16.0%、根室支庁の13.7%、日高支庁の13.6%、空知支庁の13.1%などである。非農家世帯数の割合が大きい支庁は、石狩支庁の99.1%、釧路支庁の95.8%、渡島支庁の95.4%、胆振支庁の95.1%などである。

図9は、農家世帯数の規模別農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、農家世帯数5世帯以下の農業集落数の割合が30.7%、農家世帯数6～9世帯の農業集落数の割合が28.5%、両者の合計が59.2%で全国の22.2%よりも著しく大きい。さらに、北海道は、農家世帯数30世帯以上の農業集落数の割合が僅か3.9%で全国の24.3%よりも著しく小さい。農家世帯数5世帯以下の農業集落数の割合が大きい支庁は、釧路支庁の54.3%、宗谷支庁の43.8%、十勝支庁の43.5%、留萌支庁の40.2%などである。農家世帯数10～19世帯の農業集落数の割合が大きい支庁は、空知支庁の40.1%、後志支庁の36.3%、上川支庁の35.5%、日高支庁の34.6%などである。農家世帯数30世帯以上の農業集落数の割合が大きい支庁は、檜山支庁の22.0%、胆振支庁の20.4%、日高支庁の16.0%、網走支庁の15.6%などである。

北海道における農業集落の地域特性について（寺田 稔）

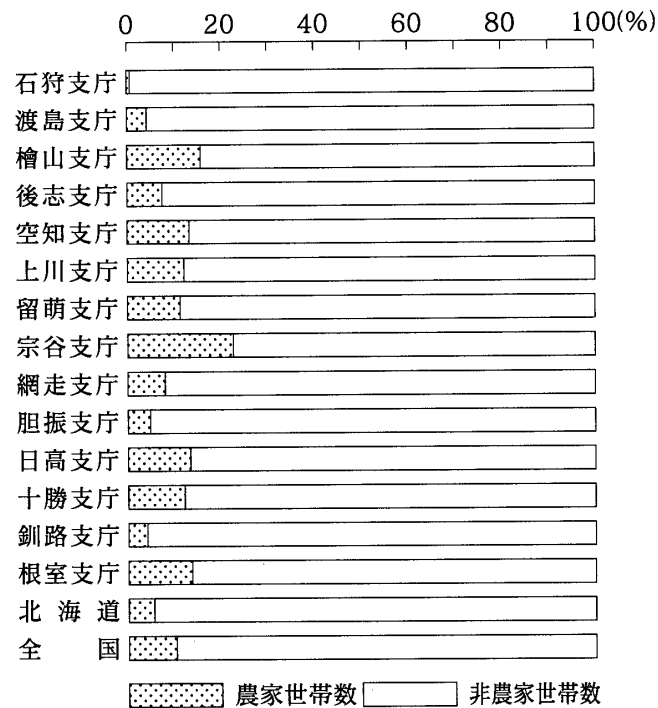


図8 総世帯数における農家世帯数と非農家世帯数の割合〔平成12年〕

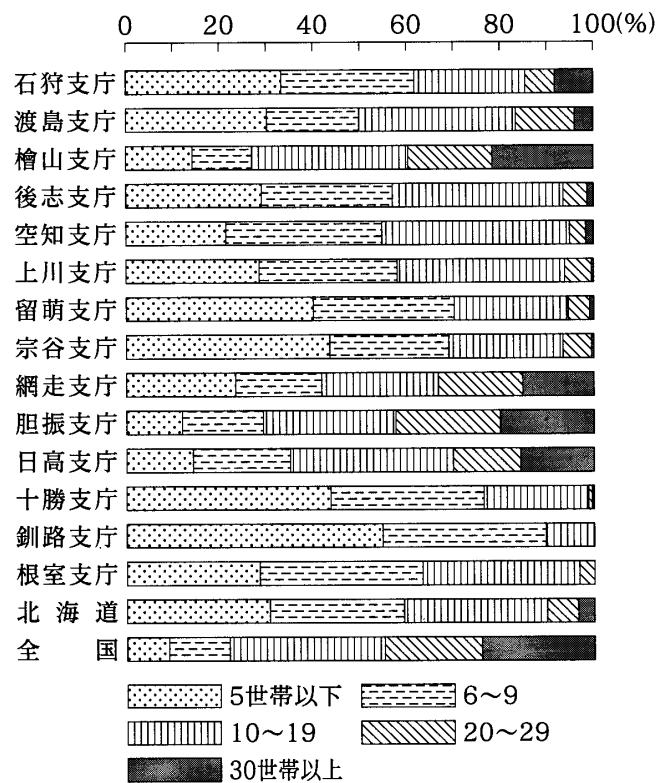


図9 農家世帯数の規模別農業集落数（割合）〔平成12年〕

北海道における農業集落の地域特性について（寺田 稔）

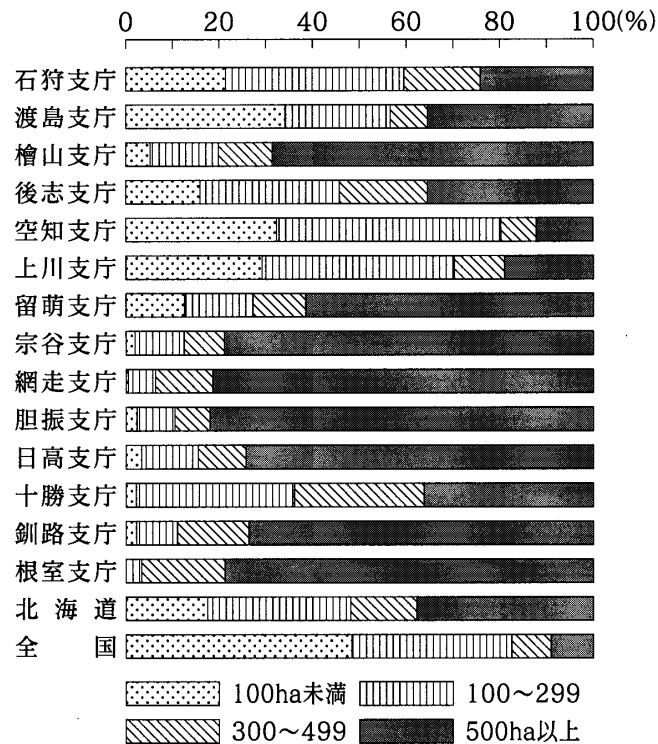


図 11 土地面積の規模別農業集落数（割合）〔平成 12 年〕

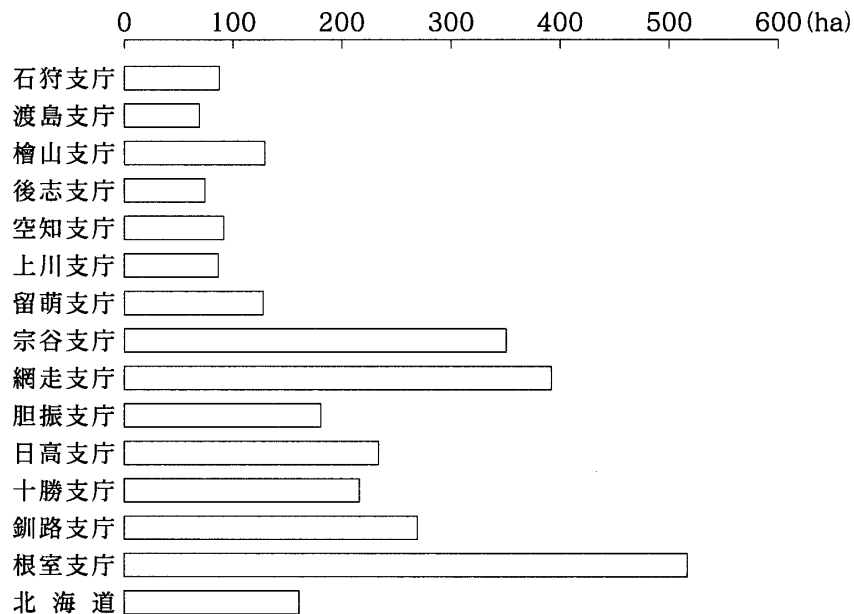


図 12 1 農業集落あたりの耕地面積〔平成 12 年〕

あたりの耕地面積が大きい支庁は、根室支庁の 516 ha、網走支庁の 394 ha、宗谷支庁の 351 ha などである。1 農業集落あたりの耕地面積が小さい支庁は、渡島支庁の 70 ha、後志支庁の 75 ha、上川支庁の 88 ha、石狩支庁の 89 ha、空知支庁の 93 ha などである。

図13は、耕地面積の規模別農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、耕地面積100ha未満の農業集落数の割合が50.6%で全国の94.1%よりも著しく小さく、耕地面積300ha以上の農業集落数の割合が14.8%で全国の0.9%よりも著しく大きい。耕地面積100ha未満の農業集落数の割合が大きい支庁は、渡島支庁の77.0%、石狩支庁の72.0%、後志支庁の71.8%、上川支庁の68.3%、空知支庁の67.4%、留萌支庁の66.1%などである。耕地面積300ha以上の農業集落数の割合が大きい支庁は、根室支庁の73.7%、網走支庁の51.6%、宗谷支庁の43.8%などである。なお、後志・上川・空知・渡島の4支庁は、耕地面積300ha以上の農業集落数の割合が3.0%以下で極めて少ない。

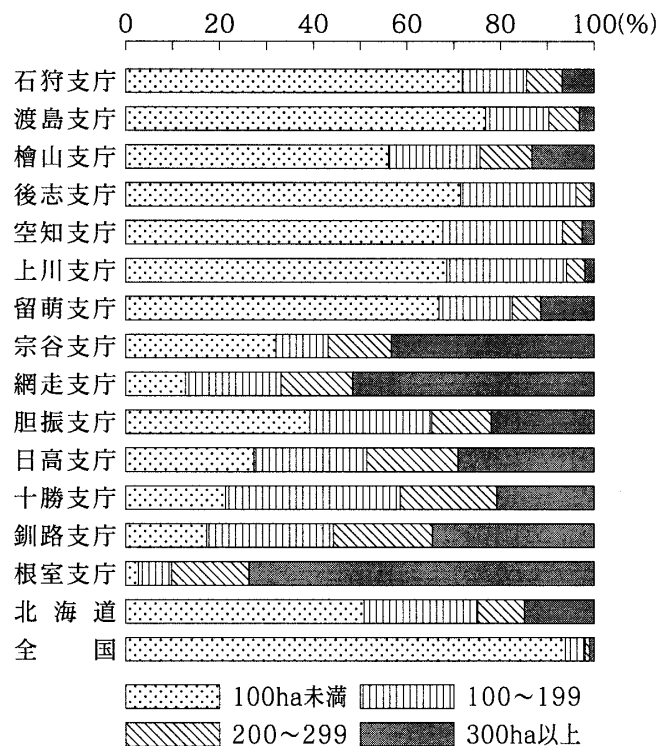


図13 耕地面積の規模別農業集落数（割合）〔平成12年〕

5. 耕地の増減とその理由

(1) 耕地の増減

図14は、平成2年から平成12年までの10年間に耕地が増減した農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、10年間で耕地が減少した農業集落数の割合が35.2%で全国の73.0%よりも著しく小さい。しかし、北海道は、耕地の増減がなかった農業集落の割合が58.0%で全国の26.1%よりも明らかに大きい。耕地が減少した農業集落数の割合が大きい支庁は、後志支庁の67.2%、渡島支庁の57.8%、石狩支庁の57.2%、檜山支庁の51.4%、胆振支庁の50.9%などである。耕地が増加した農業集落数の割合が大きい支庁は、胆振支庁が

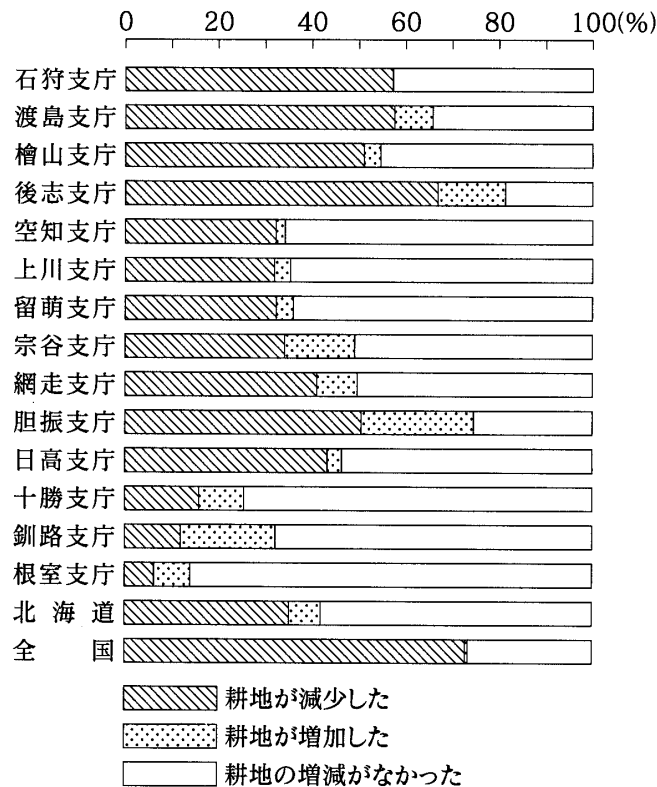


図14 耕地が増減した農業集落数（割合）〔平成2年～平成12年〕

24.0%、釧路支庁が20.4%、宗谷支庁が14.6%、後志支庁が13.9%などである。耕地の増減がなかった農業集落数の割合が大きい支庁は、根室支庁が85.6%、十勝支庁が74.1%、釧路支庁が67.1%、空知支庁が65.9%、上川支庁が64.2%、留萌支庁が63.9%などである。

(2) 耕地の減少理由

図15は、耕地が減少した理由別の農業集落数の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、耕地が転用された農業集落数の割合が68.8%で全国の65.0%より若干大きい。耕地が転用された農業集落数の割合が大きい支庁は、空知支庁の92.9%、十勝支庁の91.5%、石狩支庁の90.9%などである。耕地が荒廃した農業集落の割合が大きい支庁は、根室支庁の85.7%、後志支庁の81.1%、宗谷支庁の76.0%などである。

図16は、耕地の転用理由別農業集落数⁶⁾の割合を北海道と14支庁について示したものである。北海道は、道路に転用された農業集落数の割合が34.2%で全国の21.9%よりも大きく、住宅敷地に転用された農業集落数の割合が33.2%で全国の52.9%よりも明らかに小さい。道路に転用された農業集落数の割合が大きい支庁は、十勝支庁の55.3%、釧路支庁の44.0%、空知支庁の43.8%、宗谷支庁の41.7%、檜山支庁の41.4%などである。住宅敷地に転用された農業集落数の割合が大きい支庁は、石狩支庁の65.6%、釧路支庁の44.0%、胆振支庁の42.1%などである。公共施設用地に転用された農業集落数の割合が大きい支庁は、留萌支庁の17.8%、宗谷支庁の16.7%、檜山

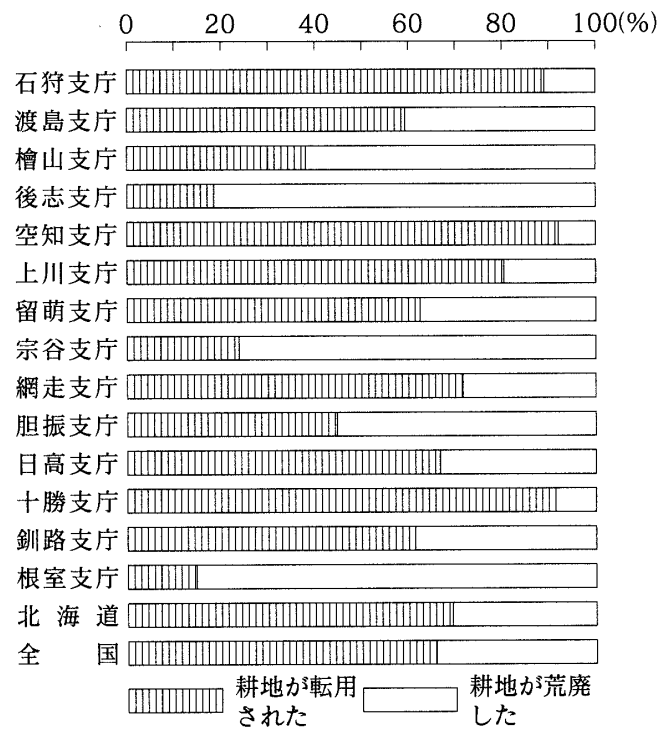


図15 耕地が減少した理由別の農業集落数(割合)〔平成12年〕

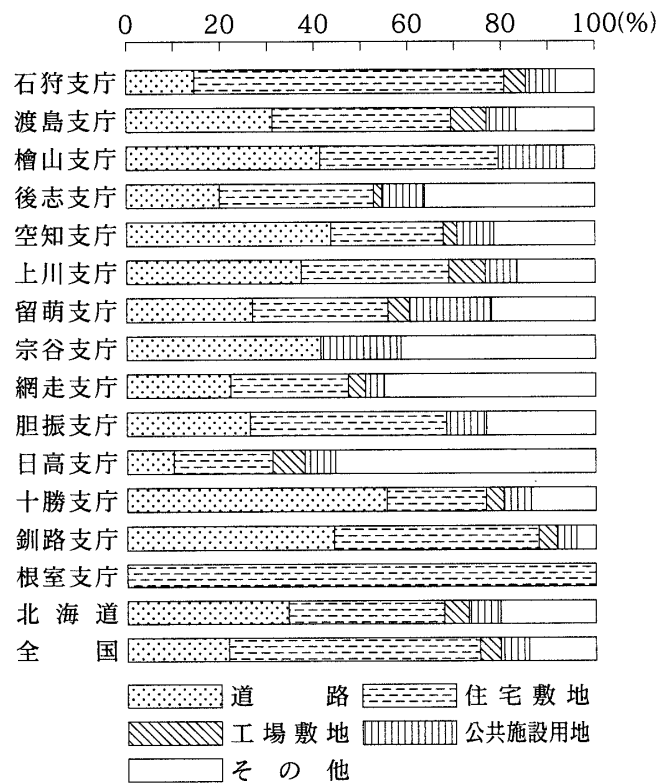


図16 耕地の転用理由別農業集落数(割合)〔平成12年〕

支庁の13.8%などである。

3. ま と め

以上分析結果をもとに北海道における農業集落の地域特性をまとめると、以下のようである。

1. 地域別の農業集落数は、上川・空知・十勝支庁など北海道の中央部地域で著しく多く、宗谷・胆振・日高・檜山支庁など北海道の北部や南部地域で少ない。
2. 農業集落の減少率は、後志・留萌・宗谷・胆振支庁で大きく、根室・檜山・釧路・石狩・空知・十勝支庁で小さい。
3. 農業集落数と農業集落の減少率との関係から農業集落の地域特性をまとめると、次のようになる。(1)上川・空知・十勝支庁は、農業集落数が極めて多く農業集落の減少率が北海道の平均値よりも小さい地域である。(2)根室・檜山・釧路・石狩支庁は、農業集落数が北海道の平均値よりも少なく農業集落の減少率が北海道の平均値よりも小さい地域である。(3)後志・留萌・宗谷・胆振支庁は、農業集落数が北海道の平均値よりも少なく農業集落の減少率が北海道の平均値よりも大きい地域である。(4)網走・渡島・日高支庁は、農業集落数が北海道の平均値よりも少なく農業集落の減少率が北海道の平均値に近い地域である。
4. 根室・石狩・網走・宗谷・檜山・空知支庁は、農業集落の70%以上が平野に分布している。上川と釧路支庁は、農業集落の59～66%が盆地に分布している。留萌・後志・胆振支庁は、農業集落の29～57%が山間に分布している。
5. 14支庁のうちの9支庁は、散居集落の割合が最も大きい。特に宗谷と十勝支庁は、農業集落の83%以上が散居集落である。留萌と根室支庁は、散在集落の割合が極めて大きい。渡島と檜山支庁は、集居集落の割合が著しく大きい。石狩と胆振支庁は、密居集落の割合が明らかに大きい。
6. 石狩・網走・胆振・渡島支庁は、総世帯数が多いうえに1農業集落あたりの総世帯数も大きく、さらに総世帯数の多い農業集落数の割合が高いことから農業集落の世帯数密度が大きい地域であると考えられる。根室・宗谷・留萌支庁は、総世帯数が少ないうえに1農業集落あたりの総世帯数も小さく、さらに総世帯数の少ない農業集落数の割合が高いことから農業集落の世帯数密度が小さい地域であると考えられる。
7. 釧路・十勝・宗谷・留萌支庁は、農家世帯数の少ない農業集落数の割合が大きい。胆振・檜山・網走・日高支庁は、農家世帯数の多い農業集落数の割合が大きい。
8. 日高・宗谷・網走・胆振支庁は、1農業集落あたりの土地面積が大きく大規模な土地面積をもつ農業集落数の割合が高いことから面積規模の大きな農業集落の分布地域である。空知・石狩・上川・後志支庁は、1農業集落あたりの土地面積が小さく小規模な土地面積をもつ農業集落数の割合が高いことから面積規模の小さな農業集落の分布地域である。
9. 根室・網走・宗谷・釧路支庁は、1農業集落あたりの耕地面積が大きく、大規模な耕地面積をもつ農業集落数の割合が高い。渡島・後志・石狩・上川・空知支庁は、1農業集落あたりの

耕地面積が小さく、小規模な耕地面積をもつ農業集落数の割合が高い。

10. 後志・石狩・渡島・檜山・胆振支庁は、耕地が減少した農業集落数の割合が大きい。このうち石狩と渡島支庁は、減少した耕地が道路や住宅敷地などに転用された農業集落数の割合が大きい。後志・檜山・胆振支庁は、減少した耕地が荒廃した農業集落数の割合が大きいことから地域農業の衰退が懸念される。

注と文献

- 1) 寺田 稔(2002年): 北海道における農業集落の現状と特性について。北海学園大学学園論集, 第112号, P.201
- 2) 農業集落は、市区町村の一部の地域において農業上形成されている地域社会のことである。農業集落は、もともと自然発生的に存在する地域社会で、家と家が地縁的、血縁的に結びつき、各種の集団や社会関係を形成してきた社会生活の基礎的な単位である。
- 3) 農林水産省北海道統計情報事務所(2002年): 2000年世界農林業センサス, 農業集落調査・農業サービス事業体調査・林業サービス事業体調査結果報告書, 北海道
- 4) 前掲1)のP.202
- 5) 農業集落は、その形態から次のように区分される。散在集落は、主に山場の農業集落にみられる形態で、家がいくつかの谷あいに分かれ、家と家とがばらばらに分布している状態の農業集落をいう。散居集落は、主に平場の農業集落にみられる形態で、家と家との間に広く田畑が入っている状態の農業集落をいう。集居集落は、平場、山場を問わず家が一定の区域に集まって敷地が隣接し、居住地区と耕地が分離されている状態の農業集落をいう。密居集落は、主に市街化区域にみられる形態で、農家と農家の間に非農家が混在して家と家が密集し、市街地に連続している状態の農業集落をいう。
- 6) 第1位の転用理由により農業集落の数を計算した。